

Q&A

黄疸を契機に発見された多発肝嚢胞性病変

【問題】

症例：40歳代、女性。

現病歴：眼球結膜黄染および皮膚掻痒感を主訴に近医受診。肝腫瘍による閉塞性黄疸と診断されたが、経皮的肝腫瘍生検では悪性所見なく、ERCチューブ留置後、精査加療目的に当科紹介。

血液検査所見：CEA 1.7ng/ml, CA19-9 <2U/ml, AFP <5ng/ml, AFP-L3測定不能, PIVKA-2 27U/ml。

腹部造影CT (Figure 1), 腹部MRI (Figure 2), ERC (Figure 3) を示す。

1. 考えられる多発肝嚢胞性病変の鑑別診断は？
2. 治療方針は？

解答は (1643p) に掲載

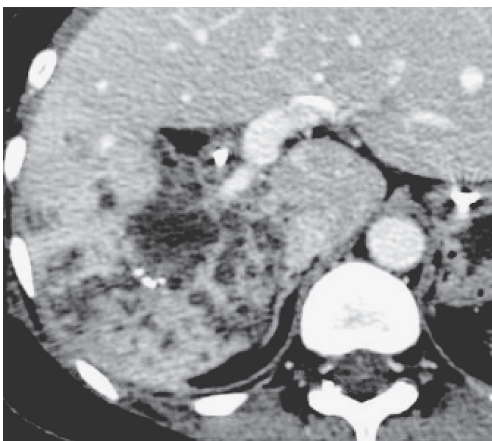


Figure 1. 腹部造影CT：肝右葉の大部分を占めるびまん性の低濃度域を認め、一部石灰化をとまう。

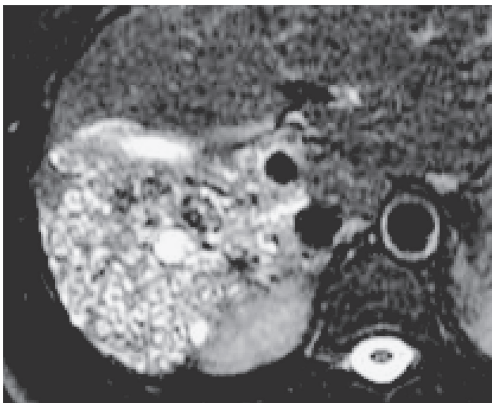


Figure 2. 腹部MRI (T2強調画像)：CTの低吸収域に相当する部分にT2強調画像で高信号を示す病変を認める。

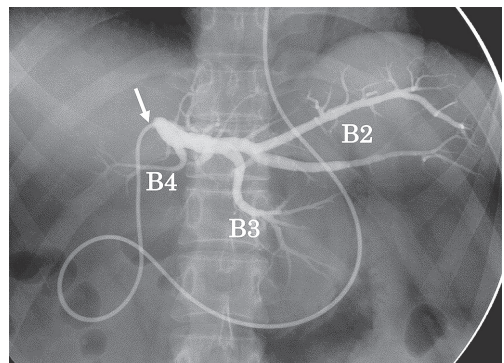


Figure 3. ERC：左胆管の造影で肝門部胆管の狭窄を認める (矢印)。